

(資料 1 1 - 3)

防災勉強会実施書 (通算 第 8 回)

平成 25 年度特別研究「障害者の防災対策とまちづくりの総合的推進に関する研究」において、以下のとおり勉強会を実施いたしました。

研究代表者： 北村弥生 (国立障害者リハビリテーションセンター)

年月日：平成 26 年 3 月 23 日 (日) 10:00-12:00

場所：A 公民館

参加内訳：

所沢市 A 町 B 丁目在住の障害当事者 9 名

(車いす利用者 4 名、杖使用者 1 名、介助者 1 名、全盲者 1 名、弱視者 2 名)

国立障害者リハビリテーションセンター研究所 2 名

北村弥生 04-2995-3100 内線 2530

高橋 競 04-2995-3100 内線 2581

ボランティア組織 C 代表 1 名

目的：

- ・災害時への準備 (自助、共助) を、地域で、障害当事者の視点から行う。
- ・「障害者の防災と街づくりのあり方に関する研究」としては、当事者から発信する防災活動を参与観察して全国に報告したい。そのための場の設定や応援をする。

勉強会内容：

1) 自己紹介：

- ・当事者 (介助者) 全員は、市営住宅または県営住宅に住む高齢者であり、互いに面識はあった。

2) 災害に関して心配していること、勉強会で解決を目指したいこと：

- ・要援護者登録している人は 2 名
- ・防災訓練参加者は 1 名
- ・一次避難所の小学校体育館を見たことのある人は 1 名
- * 10 階に住む全盲の男性
- * 5 階に住む車いすの女性

<自治会について>

- ・市営住宅と県営住宅は自治会加入が義務付けられていた。参加者は全員、自治会に加入していたが、県営住宅 (718 世帯) では外国人居住者が約 2 割、若年者は 10 年を上限に退去する規則があることから支援者候補が少なかった。自転車を玄関前に置かないことなどのルールの徹底もされていなかった。
- ・市営住宅自治会の毎月 1 回の清掃に、できることは少ないが、参加する者があった。
- ・県営住宅では自治組織の意識は低く、清掃もないため、近隣の中学校、秩父学園、所沢学園が清掃に来てくれる。
- ・階段を共有する住民同士の懇親会を昨年、居住者のトラブルをきっかけに行った例があった。近隣とのつきあいの必要性は認知しているものの、実現には困難を感じる者が多かった。

<避難について>

- ・小学校体育館のスロープ設置とトイレのバリアフリー化を求める意見があった。一方、狭山

ヶ丘のC小学校の体育館に木のスロープがついていること、D小のトイレの段差に教頭が自作のスロープで解消したという情報提供があった。

・3.11に、公民館で、障害者への支援がなされなかったことへの反省。

・避難の時には、「支援は余裕があれば」になるだろう。

・避難の手順プログラムを作ってほしい

・ボランティア配置の手順も作ってほしい

* どう自宅から出るか、誰が補助するか、5名くらいの補助者と常時、付き合うことが有効（ボランティアより）。

3) 今後の勉強会に参加してほしい人：

・市営住宅自治会長、県営住宅自治会長に、勉強会の趣旨を説明、防災訓練などで、どのような連携が取れるかを、北村より事前に相談する。

・近所の人

4) その他

・会場の公民館は2階で、1階は児童館であった。

・2階へは、階段の他、リフトがあったが、まず、インターホンを押して、職員を呼び、リフトの電源を入れるために、インターホンのボタンが車いすでは押せない位置にあった。また、リフトの台がある階の扉のみが開閉できること、扉を閉めないでリフトが昇降しないために、2階に上がるのに、時間を要し、開始は10:17であった。

・会場の公民館のバリアフリーチェックは2009年に行っていた。

・最寄の小学校でも、バリアフリー設備の説明会があった。

5) 次回

・6月15日（日曜日）

・次回までの宿題（北村）

* C小学校の体育館に木のスロープ、D小のトイレの段差解消スロープを見学し、どの程度のものが有効かを確認する。

* 公民館から、停電時のリフトとエレベーターの対応について連絡を受ける。

停電時の非常電源はない。日曜日には公民館職員は1名になるが、平成26年4月から児童館が日曜日も閉館するため、停電時の車椅子の昇降は職員が手伝える見込み。（注：具体的な方法を共有し練習する必要があると考える）

* 公民館長に、勉強会の趣旨などを説明し、連携の可能性を相談する。

* バリアフリー化を行っている小中学校を、市役所に問い合わせる。

市役所に市内の避難所体育館のスロープとバリアフリートイレの設置状況を尋ねたところ回答を得た（図）。最寄の小学校の備蓄倉庫に災害弱者用トイレはあった、校舎からは体育館へのスロープが準備されていた。

* 災害弱者トイレがある小学校を問い合わせる

平成20年度 行政監査結果報告書（防災備蓄倉庫などの管理について）

http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/shiseijoho/kansa/syurui_kekka/gyouseikansakekk/20gyouseikansa/files/20gyouseikansahoukoku.pdf

によると、62か所中22か所に災害弱者用トイレはあった。また、平成25年度予算で*台のラップポイントイレ（汚物を自動的にビニール袋に包みシールする電動トイレ）が購入されていた。仮設トイレは和式、洋式、弱者用の3種類があり、多いところは合計5機があったが、様式と弱者用はない避難所の方が多かった。平成24年度の資料で、弱者用トイレがあったのは、松井小、荒幡小、柳瀬小、東所沢小、安松小、北秋津小、南陵小、富岡小、西富小、神栄小、清進小、明峰小、旧並木東小、若松小、林小、宮前小、北中小、北野小、小手指中、上山口中、泉小、日大芸術学部（後日、危機管理課に確認し、若干の相違があった）

* 総合学習のリスト（社協）に、障害者の防災を掲載する相談をする。（代表者と）

6) 発言要旨

- I: 今日、避難場所が F 小学校である X 町 Y 丁目の皆さんに集まっていた。災害時の対応について、これから皆さんと話し合っていきたい。
- 北村: 配布資料の確認と説明。M さんには後日メール送付の約束。写真と見取り図で、F 小の様子を説明。この勉強会では、大災害に備えた避難所のことを話してもよいし、停電や大雪などの日常の延長のことを話しても良い。例えば、今日の会場を避難所とする可能性について話してもよいかと思う。2 階まで上がるためのリフトが大変だったことや、1 階の児童館が使えるればよいかもしれないこと、寝るスペースやベッドの問題など。
- M: 研究者が関わるのであれば、マニュアルのようなものを作ってほしい。いざという時に役立つネットワークやボランティアをどうやって育てていくかが大切。
- 北村: マニュアル作りなどは自分たちで作ってほしい。答えは一つではない。パンフレットの作成や全戸配布などを行うのであれば、そのお手伝いをするにはできる。我々の活動としては、昨年、E 小などの地域防災訓練に障害者を参加させる試みを行った。災害用のバリアフリートイレもあったが、F 小の備蓄倉庫にあるかは分からない。
- I: F 小の防災訓練には毎年参加している。県営グラウンドでやったこともある。障害者の参加も呼び掛けているが、なかなか実現しない。学校のバリアフリーに関しては、3 月 15 日付で教育委員長へ要望を出した。保護者に障害者がいて、教頭がスロープ等を板で作った例もある。災害はいつ起こるか分からないし、起こった時には学校が避難所になるのだから、学校は子どもたちの勉強の場だけではないということ認識しなければならない。近いうちに、F 小の点検(バリアフリーチェック)をしたいと思う。
- 北村: 総合学習の時間に啓発活動をすることもできる。様々な人を巻き込んで進めていくことでうまくいく。
- YT: 3.11 の時、妻は社協にいたが、スタッフはみんなすぐに逃げてしまった。これが現実。家族や隣人との付き合いが大事。
- I: 学校に避難するような大災害はあまりないかもしれない。ただ、独居老人が増えていることもあり、隣近所との付き合いがますます大事になってきている。私は、自治会の役員をしたり、月に一度のそうじに参加したりして、付き合いをするようにしている。
- YT: 県営では、2 割くらいは外国人。若い人は 10 年で退去しなくてはならないので、高齢者ばかり。
- I: みなさん、要援護者登録はしていますか？
- YK: 平成 21 年に登録した。
- YT: 民生委員に、もっと障害のことを理解してもらいたい。
- YKT: 自転車置いてあるととても困る。
- I: 8 月の防災訓練では、災害時要援護者名簿は使われているのか？
- 北村: 災害時でないとな簿は使えない。訓練は災害時ではないのでだめ。
- YT: 民生委員には、障害のことをよくわかっているボランティア組織の人になってほしい。
- 北村: 民生委員の研修もよいかもしれない。ニーズはある。内容については、皆さんと一緒に考えていきたい。
- M: やっぱり隣近所との声掛けが大切。定期的な防災ニュースなどがないかもしれない。
- 北村: 弱音を言い合える関係づくりができればよい。停電になったらどうなるのか？
- YKT: 5 階に住んでいるので、エレベーターが使えなくなる。
- M: 10 階に住んでいる。エレベーターは自家発電があるから大丈夫だと思う。
- 下重: 緊急時、車で過ごした人も多かったと聞いている。女性なので、トイレのことが一番心配。
- YT: 県営だと、グラウンドに避難するのが現実的かもしれない。
- 青野: どうやって避難するのか、助けてくれる人を作っておくことが大切。独居高齢者もたくさんおり、孤立しないような関係をつくらなければならない。行政への要望もなかなか難しい。私のところでは、エレベーターごとに懇親会をする。近所で見守りあえるように、顔をつなげることが目的。マンションで縦長屋、小さなコミュニティをつくれるとよい。

- I：私のところでも、ちょっと事件があったので、親睦を深めるためのお茶会をやった。普段の掃除でもちょっとしたことくらいは話す関係ができています。それがいざという時にも役立つと思う。
- 高橋：仙台でも、普段のつながりが災害時に役立った例があった。地域でリーダーシップがとれる人を巻き込んでいくことが必要。
- YT：普段から関係をつくっていくことが大切。しかし、差別もあるから難しい。自治会長は年に6万円しかもらっていないので、感謝もしないと。副会長は2～3万円。一番いいのは連絡員で、年に20万円ももらっている。
- 今後、地域のお茶会や懇親会、チラシ配布、8月の防災訓練に向けた話し合いなどの実施を検討する。

以上